

## 第53回刈谷市障害者自立支援協議会議事録

日 時 令和8年5月22日（金）午後1時30分～午後3時00分

場 所 刈谷市役所 1階 101会議室

委 員（敬省略）

<出席者>

愛知教育大学	都 築 繁 幸
医療法人 成精会	垣 田 泰 宏
社会福祉法人 ひかりの家	野 村 徹 也
社会福祉法人 観寿々会	橋 口 磨理子
特定非営利活動法人 くるくる	村 瀬 寿 子
刈谷市障害者支援センター	相 澤 道 子
刈谷市社会福祉協議会	中 筋 陽 三
刈谷市身体障害者福祉協会	太 田 信 之
刈谷市肢体不自由児・者父母の会	大 谷 悟
刈谷手をつなぐ育成会	篠 原 幸 弘
刈谷地域精神障害者家族会	太 田 静 枝
刈谷地区心身障害児者を守る会	大 南 友 幸
刈谷児童相談センター	小野塚 大 輔
刈谷公共職業安定所	松 下 昇
愛知県立安城特別支援学校	安 藤 嘉 朗
刈谷市立刈谷特別支援学校	杉 山 徹
刈谷市教育委員会	犬 飼 栄 里

<欠席者>

認定特定非営利活動法人 パンドラの会	坂 口 伊久磨
刈谷商工会議所	岡 田 行 永
衣浦東部保健所	新 美 萌 子

(事務局)

福祉健康部 部長	加 藤 直 樹
福祉総務課 課長	山 岡 達 也
福祉総務課 課長補佐	角 岡 篤 樹
普及支援係長	西 岳 浩 司
障害企画係長	日 下 裕 康
障害給付係長	泊 浩 之
主任主査	澤 田 泰 行
主事	宇 陀 志 織
刈谷市基幹相談支援センター 管理者	水 谷 い ず み

<傍聴人>

なし

## 開会

### 資料の確認

- ・ 第53回刈谷市障害者自立支援協議会 次第、委員名簿
- ・ 日中サービス支援型共同生活援助の評価について【資料1-1】【資料1-2】
- ・ 刈谷市障害者自立支援協議会設置要綱

## 1 あいさつ

都築会長あいさつ

## 2 議題

### (1) 日中サービス支援型共同生活援助の評価について

(株) TRINITYPARTNERS: 資料1-1により「日中サービス支援型共同生活援助の評価について」説明

委員: 幅広い年齢や障害の種別も様々な方がおり、利用者のニーズや状況に合わせた支援を個別支援計画に合わせて行っているとのことだが、具体的にどのような対応をしているのか。

(株) TRINITYPARTNERS: 例えば、精神障害や統合失調症等で気分が落ち込んでいる方にモチベーションを上げるような声かけを行うなど、コミュニケーションの取り方を意識している。また、強度行動障害の方には、職員の先入観なく対応できるように、絵や文字盤を使って会話をしている。

委員: 離職率について、全何名の従業員の内の3名が辞められたのか教えてほしい。また、辞めた方の離職理由がわかれば教えてほしい。

(株) TRINITYPARTNERS: 全職員16名のうち3名が辞めている。3名の内1名は離職ではなく異動により、事業所からいなくなったため、離職ではない。残り2名に関しては、両名ともダブルワークをやっており、身体的な負担が大きく、もう一箇所の事業所に専念したいため退職している。

委員：7月に開催された地域連携推進会議の参加者を教えてほしい。

(株) TRINITYPARTNERS：参加者は利用者、その家族、自治会長、民生委員、市議会議員、事業所の方に参加していただいた。意見としては、もう少し地域との交流を深めるべきとの意見があり、事業所として地域とのつながりがあまり取れてなかったと痛感した。また、近くの高校に職場体験のチラシを配付しているため、その内容を紹介した。

委員：昨年に指摘した内容であるが、個別支援会議に本人が参加する機会を作ることができたか。

(株) TRINITYPARTNERS：前年に比べ本人参加した会議が行えている。

委員：サービス担当者会議の開催について、なかなか相談員が参加できなかったとあるが、工夫したことがあれば教えてほしい。

(株) TRINITYPARTNERS：サービス担当者会議を開催しているが、日程調整や緊急時の開催が難しい場合がある。その場合、正式な担当者会議の形ではなく、本人を含め家族と直接話し合うなど、関係機関同士で話し合いを行うこともある。

委員：安全管理面について、事業所と本人や家族という1対1の関係ではなく、外部の目が入るような仕組みはあるか。

(株) TRINITYPARTNERS：金銭管理に関して、例えば成年後見人がついていての方に限っては、元々金銭管理をしていた事業所を含めるなどの対応をしている。

委員：個別支援計画に基づき、利用者（子ども）が施設などで心理的に安定したり、問題行動が減少したりといった客観的な達成が見られたとしても、家庭に戻るとストレスが親に向けられたり、親からの反発や意見が出るなど、施設での状態と家庭での実態との間に「溝」が生じることがある。このような「溝」が生じた際に、個別支援計画や実際の行動とのズレについて、親とどのように調整していくのか。

(株) TRINITYPARTNERS：まずはご家族との信頼関係構築を重視し、直接コミュニケーションを取ることを基本としている。それでも解決が難しい場合は、相談員に協力を仰いだり、サービス担当者会議を開催したりする

ことで、ご家族の意見を聞き、その「溝」を軽減・解消する努力をしている。

委員：短期利用の受け入れ人数が 97 名となっているが、これが平均値なのか、増えている過程なのか、その推移を教えてください。

(株) TRINITYPARTNERS：短期利用について、まだまだ空室が目立っているため、募集をしている。人数の推移に関しては増えてきている。

社会福祉法人観寿々会：資料 1—2 により「日中サービス支援型共同生活援助の評価について」説明

委員：知的障害のある方々が健常者と同様に人生を豊かにし、ゆっくりながらも成長していくために、彼らの成長をどのように促し、「こんなことをやってみたい」という希望に対して、金銭的な課題も踏まえつつ、どのような支援をしているか。

社会福祉法人観寿々会：知的障害者の意思決定支援について、特に長期間入所施設で過ごしてきた利用者の場合、自ら選択する経験が少なく、「与えられたものを受け入れる」傾向が強いため、意思形成に時間がかかるという課題がある。この課題に対し、現在は幼少期からの興味や生活歴を探る「ヒアリングシート」を作成し、個々の利用者の興味を深く理解しようとして試みている。また、移動支援などを通じて多様な経験を提供し、例えば音楽や装飾品への反応から興味の方角性を探る個別のアプローチも行っている。集団向けのプログラムで個々のニーズに対応することの難しさも感じており、喫茶店など外部の場へ誘導し、そこでの情報や経験を通じて自らの意思を形成する機会を増やす試みも始めたばかり。しかし、そうした場へ連れて行っても、自ら選択する機会が少なかったため、なかなか反応が得られないという新たな課題に直面している。現在は、例えば様々なふりかけを用意して選択を促すなど、小さな選択の機会から始めることで、利用者が自らの意思を形成し、表現できるようになるための支援方法を模索している段階である。

委員：自立支援協議会の地域生活支援拠点として、国の基準に基づいて一人

暮らし体験の場の部屋を作っていただいているが、その活用状況等はどうのような感じか。

社会福祉法人観寿々会：「一人暮らしの体験」提供には、利用者にとってハードルが高いと感じている。相談は受け、利用に向けアドバイスをするものの、実際に挑戦するにあたり、未経験のことへの挑戦が難しいことや、先行する事例が少ないため、「最初の一步」を踏み出すことが非常に困難なのかと思う。一方で、「短期入所」のニーズは非常に高く、登録者数は100名を超え、刈谷市外からの問い合わせも増加している。特に週末はほぼ満床に近い状態で稼働しており、昨年比1.5倍の利用率を記録している。緊急時の受け入れ体制の構築が今後の大きなテーマであり、緊急時の定員超過も視野に入れながら対応を検討している。しかし、「グループホームの体験」に関しては、実際にグループホームへの入居を検討している場合にのみニーズがあり、「入居しないのに体験するのはおかしい」という認識から、体験利用自体のニーズは低いという現状がある。このため、理想とする支援の提供と実際の利用者のニーズとの間にギャップが生じていると感じている。

委員：地域連携推進会議の参加者を教えてほしい。また会議によって、グループホームの認知を高めることができたかどうか教えてほしい。

社会福祉法人観寿々会：地域連携推進会議には都築会長をはじめ、地区長や民生委員、刈谷市、地域の方に関しては、近隣に住まわれている障害の子どもをもつ保護者の方等に参加していただいた。地域連携推進会議では、福うさぎだけではなく、観寿々会が運営する他の入所施設も含めて、施設を知っていただくために実施した。この会議を実施したことにより、地域の人たちが理解してくれたかは、なかなか難しいところである。当施設は地域から少し離れた山の上にあるが、地域住民には福祉施設として元々知られており、地域における認知度は向上している。観寿々会がこの場所で30年以上を経過する中で、地域住民の偏見は薄れてきていると認識している。ただ、地域から物理的に離れているため、「みすず祭」のようなイベントが、施設を初めて知る地域住民にとって、理解を深める重要な機会となるとよい。

委員：説明の中で副業という話をしていたが、同一施設内の副業の場合、労働時間の管理をどのようにしているのか。

社会福祉法人観寿々会：副業に関しては基本的には休日出勤扱いとして、150%の支払いでやっている。労働基準法に規定のある、週に1日休みというところは守っている、また残業で副業をやっている場合には、三六協定範囲内でやっており管理を行っている。

委員：人材確保に関して、ハローワークに求人を出していただいているが、有料の職業紹介事業なんかも使っているのか。

社会福祉法人観寿々会：ハローワークに求人を出してもなかなか来ないのは事実である。障害者福祉の仕事内容が多様化しすぎて求職者には見えにくいと感じる。「介護」のように具体的な業務（おむつ交換、食事介助など）がイメージされにくく、またグループホーム、B型事業所、精神的・身体施設などで業務内容が大きく異なるため、興味があっても応募のハードルが高いと感じる。有料求人サイトへの依存度が高く、当法人だけでも年間約5000万円程度を費やしているが、それでも採用者の約3割が3ヶ月以内に離職するという課題に直面している。職場体験等を実施しているが、採用にはなかなか結びついていない。さらに、働き方改革の影響により、月曜日から金曜日の日勤勤務を希望し、土日祝日や夜勤・宿泊勤務を避けたいという求職者が増加しており、これらの条件を満たす人材の確保が非常に困難になっている。

委員：福うさぎのこの一年を振り返っての、この場で紹介できそうな、ヒヤリハットのものがあれば教えてほしい。

社会福祉法人観寿々会：ハッとしたこととして、知的障害者支援、特に長年入所施設で働いてきた職員にとって、重症心身障害者の支援は新たな学びと気づきの機会となっている。以前は、着替えの際に職員が選んだ服を着せる、食事介助も半ば暗黙の了解で提供するといった、ある意味「当たり前」の支援を行っていた。しかし、重症心身障害者を受け入れる中で、「この服は着たくない」「ここから食べたい」といった具体的な意思表示に直面し、ハッとさせられることが多くあった。職員一同、もう一度支援方法を見直す機会となっているため、感謝をしてい

る。「ご飯を食べてくれない」や、「水分を摂ってくれない」ということが、こんなに大変なことなんだと改めて感じ、介助の方法を考え、勉強したいと考えている。

### 3 その他

事務局より、愛知県が指定している西三河南部西地域アドバイザーが山北様となったことを報告。

会 長：最後に福祉健康部長、一言お願いしたい。

事務局（福祉健康部長）：本日は、日中サービス支援型共同生活援助事業の評価にあたり、確認とご助言をいただき感謝申し上げます。本日委員の皆様にご評価をいただいた日中サービス支援型共同生活援助、いわゆるグループホームは、障害のある方が地域で安心して継続的に生活していく上で、一番重要な役割を担っている。また、親亡き後の安心にもつながる施設ではないかと思っている。本日委員の皆さまからいただいた意見や要望などの結果を今後の施設運営に取り入れていただくことで、利用者にとってのサービスの向上が図られ、また本市の障害福祉の推進にもつながっている。

今後引き続き、本市の福祉行政を推進するため、皆様のお力をお借りしたいと考えているので、よろしくお願いしたい。

会 長：以上をもちまして、第 53 回刈谷市自立支援協議会を閉会する。

以上